

同窓会だより

発行

千葉県立船橋高等学校同窓会

千葉県船橋市東船橋6-1-1
〒273-0002 TEL047-422-2188
E-mail funakoudousoukai@yahoo.co.jp

印刷 (株) サラト
姫路市北条宮の町172番地
TEL 0792-84-1380

題字／小原天簫先生

母校はいま

創立八十周年を迎えて

八十年の歩み

西暦二千年、船橋高校は創立八十周年を迎えました。本校の発足は、船橋大神宮の神宮千葉健吉氏が、教育家の香川宣勝氏が設立した東華学校を引継ぎ、校名を船橋中学校と改め、大神宮客殿を教室として教育活動を開始した大正九年とされています。その四

十年後の地に校舎が新築され、中学校令による私立学校となりました。昭和十五年、船橋市立船橋中学校となり、昭和十八年には夜間部が設置され、翌年には県立に移管されます。昭和二十三年、学制改革で千葉県立船橋高等学校として再発足、翌年には女子が初めて入学しました。昭和二十五年、市町村組合立習志野農業高等学校を合併し農業科(後の園芸科)とし、昭和三十八年に菓園台高校に移管されるまで習志野校舎と称しました。全日制の普通科、定時制の普通科に加え、昭和四十四年に全日制の理数科一学級が設置され現在に至っています。この間、木造の旧校舎から新校舎へ改築。昭和三十九年の本館第

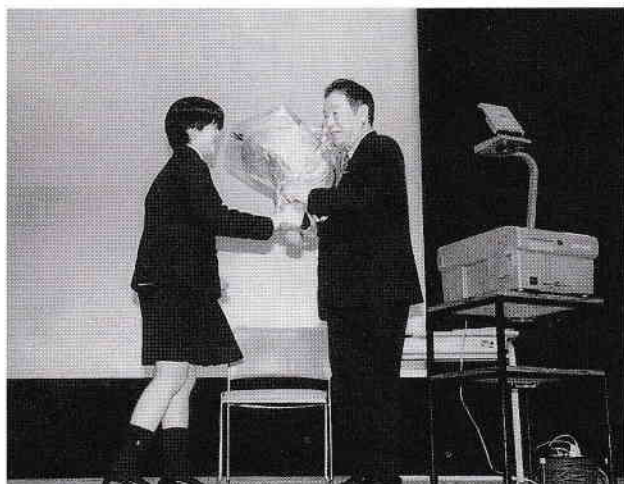


正門から校舎を望む

一期工事に始まり、本館第二期、南館、体育館、武道館等が次々に竣工しました。県内の高校生徒数のピークは平成元年に到来しましたが、それに対応して、特別教室棟の増設、全日制普通科の学級増が図られ、全日制は各学年十学級編成となりました。また、創立七十年に前後して、セミナーハウス、部室棟、室内プール等が竣工され、今や県内で有数の充実した施設を備えた高等学校に数えられております。この八十年間の卒業生総数は約二万五千名を数え、同窓生の学術・法曹・医学・教育・政治・経済・芸術等の活躍は、本校の伝統を更に輝かしいものとしております。

記念事業の準備

平成九年度に創立八十周年記念事業準備委員会が組織され、記念事業の検討が始まり、翌年、学校・同窓会・PTA・定時制教育振興会が協力して記念事業を推進する方針が確認されました。平成十一年五月、同窓会三役と学校側が打合せ、記念事業の概要や予算が検討されました。六月の同窓会常任理事会を経て、八月一日同窓会総会において記念事業の実施案が承認されました。これを具体化する組織を作るため、同年九月、同窓会、P



記念講演 (江崎玲於奈先生)

主な記念事業

記念事業の主な内容は、以下のとおりです。
一、記念講演会の開催
著名な科学者の講義で科学技術への関心を高めることを目的

PTAと学校の打合せが持たれ、同窓会・PTA・定時制教育振興会・学校の代表十五名で構成する記念事業実行委員会を設置、十一月の第一回委員会から活動が始められました。これと並行して同窓会は、昭和二十八年から五十五年までの各学年毎の代表者で構成される募金事業実行委員会を組織し、募金方法等を検討しました。その後、同窓会事務局を中心に準備が進められ、十二月初めに同窓生に対する募金依頼文善が発送されました。

に千葉県の事業「科学者等による特別理科教室」を本校創立八十周年事業として、県との共催で、本年二月四日船橋市民文化ホールで行いました。講師にノーベル物理学賞を受賞した物理学者江崎玲於奈先生をお招きし、「変革の時代—科学者が歩んだ五十年の道—」という演題で講演いただきました。長年アメリカで研究生活をされた経験を基に日米文化の比較、専門の半導体の話、自身の生立ち、青年期、ノーベル賞にまつわる体験など、素晴らしい講演でした。

二、国際交流事業の推進

昨年の同窓会だよりでお知らせしたオーストラリア短期留学を今夏も実施し、全日制二年生三十人が夏季休業中の約二週間、メルボルン郊外のパドウア・カレッジに短期留学して大きな成果を上げました。この事業をさらに発展させるため、留学生派遣の経費や交換留学生受入の補助等に充てる基金の設立を計画しています。

三、船橋高校の二十一世紀ビジョン

調査と報告書作成

二十一世紀を目前に、学校を取り巻く状況が大きく変化しており、本校は地域や保護者等の期待に応えられる魅力ある学校づくりに全校をあげて取り組んでいます。このため、特設委員会を設置し、在校生・保護者・地域住民・同窓生等学校内外に広く調査を行い、その結果を基に本校の二十一世紀のあるべき姿を検討する事業です。

四、記念誌の発行

平成九年度に組織された記念誌編集委員会は、七十周年記念誌以降の十年を八十周年記念誌

として作成する準備作業に入り、今年度に刊行予定です。

五、記念式典の挙行

創立八十周年記念式典及び記念祝賀会を平成十二年十一月二十四日に実施しました。

六、部活動の振興

現在、全日制生徒の部活動加入率は約八十五%と高く、今夏の野球部の活躍を始め各分野で実績をあげています。また、オーストラリア、合唱部等の文化系部活動も部員が多く、定期演奏会等の活動をしています。一方、定時制の部活動も盛んで、ここ数年連続して全国大会に駒を進めるなど顕著な活躍ぶりです。そこで、さらに部活動を盛んに発展させるための事業計画が立案されています。

創立八十周年を祝う

八十周年記念事業実行委員長

同窓会副会長

小石 税

(昭和三十年卒)



七、情報教育の推進

本校は、理数科設置校としてコンピュータを活用した授業を実践してきましたが、情報社会の進展の中、図書室にコンピュータを設置し、進路情報や外国との交流等で広く活用できるように機器を整備することを計画しています。

八、同窓会名簿の刊行

同窓会事業として、平成十一年十一月に刊行されました。

特別寄稿 山本敬久教頭先生

つ、時代に則した会則の改定、若い方々の事務局への参加等々というより活発な同窓会活動という事も考えてみました。特に、今後はHPなどのインターネットを活用した情報提供を進めたい。行く必要性も実感いたしました。



よい環境づくりのために

事務局長

石松 礼子

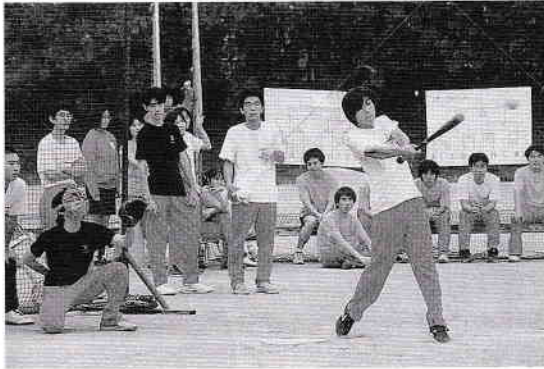
(平成十二年着任)

市川(真間)で生まれ、小・中・高と市内の学校に通いました。国府台を出て、最初に勤務したのも近くの国分高校でした。その後、四街道、千葉北、磯辺、船橋法典、市川東高校を経て、今年四月本校に参りました。本校は、今年度創立八十周年を迎えます。ずらりと並ぶ歴代校長先生方のお写真を見て、改めて本校の歴史の重みを感じました。本校の生徒達は、勉強はもちろん部活も非常に熱心です。全国大会のみならず、世界大会にも出場する生徒もおり、他の学校と比べても、事務室という生徒とあまり接触のない場所にいるが、一人一人が自立しているという感じを強く持っていました。事務室の手を患わずになんでも自分で処理できるという感じなのです。やがて社会のリーダーになるであろう彼らを見て、実に頼もしく感じてお

ります。願わくは、世の中、多くの人が支え合って生きていくというふうなことも気が回るような心豊かな大人になってほしいと思っています。八十周年記念事業では、部活動設備の充実、情報機器の整備、国際交流基金の創設、「船高二十一世紀ビジョン」に関する調査・報告等、なかなか煩瑣な業務が控えています。同窓会の皆様のお力で着実に進められる予定であり、私も微力ながらお手伝いしたいと思っています。私の目の下の悩みは、なにごと古い校舎ゆえ、各所の修理・修繕に追われ、あまつさえ県の財政逼迫の影響で新しい施設・設備を計画・施工することができないのが安全です。せめて、生徒達が過ごせるよう配慮を怠らないよう努力したいと思っています。

県立船橋高校同窓生の皆様八十周年記念事業に協力していただきありがとうございます。七十周年と今回の二回の実行委員長を務めました。記念行事や同窓会について、いろいろな方々からご意見やご提言を頂戴し、この十年間で時代の変化の早さを痛感いたしました。しかし、ご協力を賜りました募金活動も順調に進み、記念事業も成功し、景気の低迷する昨今、

改めて世代を越えた同窓生各位の母校に寄せる思いの大きさに驚き、感謝しております。また、今回は特に昭和二十八年から五十五年卒業までの同窓会学年幹事の皆様にお力添えいただき、学年会を開催した学年や改めて学年名簿を作成した学年等、活発な同窓会活動も進めながら、また成功を踏まえつ



平成十二年度球技大会

「春の同窓会」 ～21世紀の幕明け～

実行委員長

金子安雄 (昭和三十四年卒)

八十周年を迎えた母校の新たな旅立ちの年、また、二十一世紀開幕の年、二〇〇一年も二月十一日建国記念日に我が母校の春の同窓会を開催します。

平成十二年の春の同窓会はホテルサンガーデンららぽーとで華やかに、楽しく三〇〇人以上の同窓生、仲間が集い、恩師を囲んで有意義なひと時を過ごすことができました。年を経ても我が母校立船橋高校で過ごしたという共通の思いを先輩、後輩、同級生、そして先生方と分かち合い世代を超えた輪が広がります。

そして、平成十三年は、昭和三十四年卒の第十一回卒業生が幹事学年となり、実行委員会を組織し、準備にとりかかっています。

今年、平成十二年は、母校創立八十周年の節目の年でもあり同窓会も記念事業に参加し学年単位で名簿等の整理が進んでいるようですので、これを機会に懐かしい友や恩師に呼びかけ、一人でも多くの同窓生、先生にお集まり願いたいと思っております。

今回の同窓会も会場は昨年と同様のホテルサンガーデンと決まりました。「センター競馬場前」駅も「船橋競馬場」駅と名称が変わり、駅周辺も変わっていますが、母校への道は変わっていません。会場へいらつしやる前に、母校をさ訪問頂く事もできるかと思えます。

年に一度の同窓会、旧交を温め、新たな出会いを通して、楽しい、有意義な同窓会を演出したいと思っておりますので、ご参加をお待ち申し上げます。

船高の歴史・補遺(七)

市立船橋中学校設置理由

市立習志野高校教諭 小川信雄 (昭和三十八年卒)

最近、船高が財団法人船橋中学校から船橋市立船橋中学校となる際に、船橋市から千葉県や文部省に提出された申請書一括を発見することができた。

これは、千葉県文書館に收藏されている県庁文書中にある「学S16」2、公立中学校設置の件(市立船橋中学校 S15・1・15)で、市立船橋中学校発足に関する基本的な史料である。船橋中学校は私立から市立への設置替によって、施設・設備や教授体制などが一定の基準に整備されるようになった。

私は「千葉県立船橋高等学校七十年史」第一章創立から一九七〇年代初めまで(25〜26頁)で私立から市立への移管の詳しい事実は判らないと述べたが、その部分を増補できることになった。それを二、三点紹介したい。

船橋市長が私立船橋中学校を市立の公立中学校として設置したい旨を、千葉県知事を通じて文部大臣に申請したのは、一九三九(昭和十四年)八月三十一日であった。文部大臣から設置の認可があったのは、申請の翌年一九四〇(昭和十五年)年一月十三日であることが判明した。文書群には文部大臣の設置認可の写もある。船橋市長の申請文書には市立中学校設置理由、調書(名称、学科及生徒

定員、学則、経費及維持ノ方法、校舎改築並増築計画等)、自昭和十五年度至昭和十九年度中学校予算予定、市立中学校学則、中学校経営ノ件、中学校位置見取図、校舎教室見取図等をまとめた「目録」も添付されている。したがって、この文書によって、戦前の船橋市立中学校時代の歴史を、より一層探求することが可能になった訳である。ここでは「市立中学校設置理由」の全文を紹介したい。

「本市ハ昭和十二(一九三七)年四月市制施行以来、市勢頓ニ揚リ、近隣町村ヲ包括セル経済文化ノ中心ヲ為シ、商工業ノ振興及都市施設ノ充実に伴ヒ、戸数人口ノ増加及資力ノ膨張著シク、殊ニ学齡児童數ハ逐年増加ノ趨勢ニシテ、初等教育終了後ハ更ニ進ンデ中等学校ニ入学ヲ志望スル者、益々多キヲ加フルノ傾向ニアリ、然ルニ本市ニ於テハ之ニ対スル県立中学校ナク、僅カニ私立中学校一ヲ有スルノミニシテ、而モ其ノ設備極メテ不完全ナリ、從ツテ中学校志望者ハ東京千葉中学校、同東葛中学校及東京市立中等学校等遠隔地ノ中学校ニ入学スルノ余儀ナキ状態ニシテ、現在(市内)からこれらの中学校へ通学生徒ハ五百有余名ニ達スルノミナラズ、修学上ノ支障尠

カラズ、為ニ志ヲ得スシテ止ムヲ得ズ他ニ目的ヲ變更スルモノ、或ヒハ不幸ニシテ進学ノ機会ヲ失スルモノ等アルハ、益々人的資源充実に要アル帝國ノ現状ニ鑑ミ、頗ル遺憾トスル所ナリ

最近(最近)社会状況ノ推移ト一般市民ノ向学心ニ伴ヒ、中学校ノ設置ヲ要望スルコト切ナルモノアリ、軍郷習志野(例えば千葉工業大学は鉄道第二連隊、習志野高校は陸軍糧秣廠の用地で、千葉県は首都の防衛のため、軍の施設が多かった)ヲ擁シ、近ク利根放水路開通ト共ニ、一大発展ヲ遂グベキ大船橋市建設ノ為ニハ、人的要素ヲ完成スベキ教育ノ力ニ俟ツテ、文化ノ進展向上ヲ図ルハ極メテ緊要ナルヲ痛感ス、仍テ現在中学校ヲ市ニ移管シ、内容ノ充実に因リ、以テ叙上ノ目的ヲ達成セントス

何卒右事情御賢察ノ上、市立中学校設置ノ儀、御認可相成度候

* (一) 内は注記

首都近郊都市船橋市は当時、面積四〇・二七平方キロメートル、一九四〇年国勢調査人口は五〇、九〇七人であった。東京市都市計画課の「昭和十八年大東京整備計画資料第三集 近郊区町村現況調」(千葉県史料資料 近現代 産業経済二)によれば、船橋は海軍無線電信所(現在の行田団地、税務大学校)や海産物集散地として、僅かに知られる程度であったが、市制施行後、日中全面戦争の開始という「時局ノ波」によって工業都市に変わつたことと評価されている。首都東京の発展や戦争という「時局ノ波」が市立船橋中学校を誕生させた大きな要因であったことが、この設置理由からわかるであろう。



将棋の朝日アマ名人で、全日本プロトーナメントに特別参加。プロに三連勝という快挙を遂げた将棋部OBの山田さんにご寄稿いただきました。

将棋と相撲とはアマチュアとプロの差が大きいと昔から言われてきた。その常識に反し、プロの最高段位、九段の大内プロに初めてアマの私が公式戦で勝ったことは主催紙、一般紙、さらにはスポーツ紙にまで取り上げられたので、ご記憶の方もいらつしやるかもしれない。自分としてはアマとプロの差を十分に知り、十回に二、三回はチャンスがあるとの信念で、最後まで諦めなかったことが望外の結果を生み出したと考えている。ところで、将棋のプロはどうやって生活しているのか、そしてプロの試合になぜアマチュアの私が出るのが出来たのかという二点を説明しなくてはならない。まず、第一に、将棋のプロはその全てが社団法人日本将棋連盟に所属している。この日本将棋連盟がプロの戦いの結果である棋譜を管理し、それを掲載する側(新聞社が多い)が契約金を支払い、棋譜(朝刊などの下の方に囲碁と将棋の図面が

苔の一念岩をも通す

朝日アマ名人

山田敦幹

(平成元年卒)



ある)を連載する。将棋連盟は主催側の契約金を対局料(将棋を指すことで得られるお金)、賞金などで団体に所属するプロに分配する。こうしてプロの生活は成り立っているのである。ということに勝てば名誉と賞を得られるが、負ければ両方とも手に入らない厳しい世界である。

さらにプロになるには奨励会という組織に入り(二十二歳まで)、その中で年に四人がやっとプロになれるという厳しい世界である。無論卒業までも年齢制限があり、遅くとも二十九歳までにプロになれなければ退会しなくてはならない。このようにプロは厳しい世界に身を置き、戦いのために研鑽を積んでいることがわかりたいだけだと思ふ。それではなぜ私がそのようなプロに混じって公式戦を指せたのか。実はアマチュアにも特別参加という形でプロの公式戦の門戸は開かれている。アマチュアの大会で全国優勝などの好成绩を挙げ、プロの大会の主催側が定める地位を得ることが必要だ。私の場合、朝日新聞が主催する「朝日アマ将棋名人戦」で優勝し、

「朝日アマ名人」になったことで、同じく朝日新聞の主催するプロの公式戦「全日本プロトーナメント」に特別参加できたという訳である。このようにアマチュアとして将棋を趣味として指している者には自分の力を思う存分試せる環境であることは間違いない。なにしろ自らの力量しだいで、日本で一番になることも不可能ではないのだ。

さて、私がこうまで将棋というゲームにのめりこんでしまったのは船橋に入学してからであった。それまでは地元の将棋の集まりなどで指していたが、受験などもあって距離を置いた付き合いだったと思う。それが船橋に入学して、授業が終わるのもそこそこ社会科準備室に駆け込み、部員数人で六時ぐらゐまで将棋を指しまくるという生活に変わる。もともと受験する際に将棋部の有無を確かめていたのだから、そうなるのも当然の成り行きだったかもしれない。高校時代の部活という、野球やサッカーといった団体競技や剣道や柔道などといった個人競技に二分されると思っている。将棋も個人競技に属するものであろう。野球に甲子園、サッカー部に国立競技場という夢がある。夢をつかむために戦う姿を応援することで、自分も輪の中に入り、青春を謳歌する。高校時代の代表的なイベントだ。多方、個人競技は団体競技のような一体感を得られないと感じる方もいるかもしれない。しかし、剣道や柔道に団体戦があり、

競技者と応援者が一体となることで青春を燃焼する。同様に将棋にも団体戦がある。私も船高チームで二年と三年の時、全国大会に出場した。高校将棋の団体戦は三人が一組となり、大将、中堅、先鋒で将棋を指し二勝した方が勝ち上る仕組みである。つまり、自分が勝ってもチームメイトがもう一人勝たないと勝ち上がれない。そこに仲間を信頼し、応援し、連帯感が生まれる。三年の全国大会は岡山県倉敷市で開催されたので、他校の人と大いに将棋を指したのもいい思い出だ。

このように将棋ばかりやっていただけだから、学生本来の学業の方に身が入るはずもなく、成績はおして知るべしという感じであった。ただ、同期の将棋部員の中には成績優秀者も多かったのだ、これは将棋を言い訳に遊び呆けていた自分の責任以外の何者でもない。それでも大学に入学できたのは、将棋で培われた集中力を受験勉強に活かすことができたからだ。大入学入学後も迷わずに将棋部に入部し、どつぶりと将棋三昧の日々を送ることにする。現在は公務員として仕事をし、将棋を趣味の一つ(といってもかなりのウェイトを占めている)として付き合い合っている。最近ではインターネットで将棋を指すサイトもあり、ネットサーフィンついでにアクセスし、顔を合わせたことがない方と将棋を指したり、知り合いの人が将棋を指しているのを見ながらチャットを行うこともできる。世界各国どこにいても実力をつけられる時代になったわけだ、アマチュアのレベルが上がってきたと言われている。IT技術の革新が一役買っている。よく聞かれる質問に、「将棋を指し

ている時に一回で何手まで読めますか？」というのがある。質問されている方はかなり多くの数字を予想されているのだろう。それでは私がどう答えているかというと、「三手」とまず言ってみることにして、そこでそれまでにならば軽い話題の糸口探したということになるので都合が良い。そう、この質問は私にとつてあまり面白いものではないのだ。「本当に？」とついでに来る場合は、「3x5」と答える。さらに突っ込まれると、「最後はあたりをつけた所を集中して終了まで読む」と答える。つまりこうだ。まずは一番有望な筋を三つばかり直感でつかみとる。次にそれぞれの場合の相手の最善の応手を考えてそれぞれの場合ごとに読む。そうして一番良さそうな手を見つけたら最後にその手を中心に深く読む。こうして手を決めていくのだ。とはいえ、時間との兼ね合いもあり、ここまで考えることは難しい。だから、正解は「直感と時間の兼ね合いによつていくらでも」ということになろうか。

プロと公式戦を指して一番楽しいのは、普段は時間がなくて直感と知識で捨ててしまふ所をしつかり自分の中で結論が出るまで読むことが出来ることである。将棋についてはコンピュータの進化で、いずれ人間の才能を追い越すと言われている。その時代を見るのが楽しみでもあるし怖いような気もするが、自分がこの時代に生まれ、最強の人々と戦いを繰り広げたことを誇りに思い、素晴らしい趣味として一生続けていこうと思う。「苔の一念岩をも通す」というように何事も一心不乱に取組み続けることで何か自分の新しい可能性を引き出し続けられることを信じて。

恩師探訪

人生の約半分を県船で

小滝一夫先生



私は県船に昭和二十三年から昭和五十九年三月まで約三十六年間にわたり在職した。今、七十五歳だから人生の約半分が船高で、沢山の人々との別れ、出会いや衝突があった。

生物教育変革の時代へ突入

太平洋を越えアメリカに渡ったことがある。手元のJALの日付変更線通過記念証に一九六三年の記載。まだ自由通航が出来ない時代。日本学生科学賞の代表学生二人を連れてニューメキシコ州アルブカーキに出かけた。事前にアメリカ大使館でライシャワー大使と面会。学生の一人松田喬君(高校十五回)は、「メダカの集団社会の生態的研究」を携えてアメリカに入国。大抵は冗談でメダカは社会主義者か?と話された。ニューヨークで付添いの新聞記者に学生二人をあげ、各地の高校を訪問した。折しもアメリカとソ連とは科学教育の競争時代の最中だった。国務省でアメリカの「新しい理科教育の実践状況を知りたくて来た」と伝えると、係官は上機嫌。実際に各学校の教育

器具には惹かれたが、残念なのがなかった。当時、生物教育は周辺科学の進歩で特に遺伝子解析の進歩が著しく、勉強しな

新たな生物教育へ挑戦開始

伊藤秀三校長の時代(一九六八年頃)。新校舎の設計が始まり、理科棟建築が進んだ。当時、理科主任の高石久五氏など理科教育関係者が知恵を出し合い作業を進めた。設備が整った後、急に理科設置計画が進んでいった。ところで一九七〇年代以降の卒業生は、異様な半円形テーブルで生物の授業を受けたはず。こんな考えで作られた机だ。昔、家庭では小さな部屋で多くの人が円卓を囲んで食事をした。アメリカでは一つの教室に講義と実験のスペースが用意されている。船校の円卓式テーブルは講義と実験とが同時展開出来る。講義時は半円のふちに並び、実験時はテーブルを広く使い、流しが見ながらのデスカッションが可能。年度ごとの生徒数の変動にも対応。教師の机間巡視も一巡のみで結構。ただし、こんな問題が起こった。各机に親切心

で置いた手洗い専用石鹸の中に、非常に薄い顕微鏡観察用のカバーグラスの埋め込みのみならずが生じたことだった。

座学から脱出の試み

進化した卒業生から聞いた。他校と較べながらの会話で、「二人一羽の鶏の雛の解剖(後に成体使用)」、「ショウジョウバエの遺伝実験」をしたと話す。「そんな実験はなかった」との回答。本校では確かに特色ある実験を多く取り入れてきた。現在社会的に注目されている遺伝子の問題は、ショウジョウバエの実験から、遺伝子の存在を体験したはずである。このような実験を陰で支えてくれた実習助手、長谷川政雄氏の存在は大変大きかった。このような実験から私も色々な体験を得た。女子より男子の方が解剖実験で青くなること。「雛を殺すところを見せろ」と注文する生徒が多かった。それだけは最後まで見せずじまい。ただ心臓拍動の生々しい観察だけは省略しなかった。こんな実験の後、生徒達にレポート提出を義務づけた。亡くなった生き物への精一杯の気持ちやくみ取って書くように注文した。しかし、実験の後始末は大変だ。木更津市から遠距離通勤していた

ch)で、いつも先生役の千石正一氏(二十回卒)は私の心に残った卒業生の一人だ。ヘビ・カメ・トカゲなどは「は虫類」に属する。教科書では変温動物だと教えていた。彼は私の生物研究室で「は虫類」を飼育し、観察や実験からこの定説を覆した。気温の高い時、低い時、体内の生理状態を適応させて体温調節の生活をしていたのである。今、恐竜の生活が見直されていることと重ねると興味深い。千葉大学医学部では、昔、「いのはな祭」というのがあり、高校生の研究発表会をもったことがある。大薬理学・生理学の研究者が多数出席。特に彼の説に大きな興味を示した。研究者が出ず質問に千石君の意見は適切、明快なものだった。つき添いで出席していた私は、彼の回答を聞きながら胸打たれるものを感じた。

名。千葉県の自然の問題点を学術面から引き受ける人たち(博士号取得者)。また自然破壊の堤防の役目を法律サイドから見守る自然保護課の人。今、自然破壊は社会問題となっている。私が定年二年前に学校を去ったのは、この県立博物館の資料収集事業(県自然誌資料調査会)の責任者として、沼田真千葉大名普教授(会長)と仕事をすることになった。卒業生の子供さん達がこの博物館の先輩の先生方と親しくなれば、すばらしい人の輪が作られるだろう。時代を超えた人間関係が大事になる。

老人にも人生設計があるか?

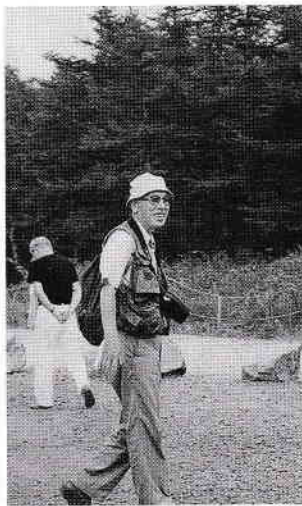
船高退職後も忙しい日々を送ってきた。近年私のシンチャン(心臓)がくたびれてきたらしい。三年ほど前に「マンガロープの生感」という本を出版した。学校時代に、休みを利用して集めた世界各地の熱帯樹林の資料を使って書いたもの。和文と英文で書いたら、他国の人との共同研究が舞い込んできてしまった。学会発表や著書づくりが、他国の研究者との約束ごと(来年)になってしまった。私のシンチャンが許してくれるか、唯一、今の悩みのたね。

卒業生の結束が今必要では

地方の学校の卒業生たちは、千葉とか東京に支部をおき、交流会をもっている。たまたま、佐藤玉和先生(九回)が県庁関係者(関連機関を含)で「たちばな会」を結成したそうだ。そういう会が出来れば会員名簿も正確になり、次のようなことも期待でき、人々の作る輪は、社会教育をさらに広げることになる。例えば「たちばな会」の卒業生の中には千葉県立中央博物館員六名の名がある。研究員一名、上席研究員二名、部長一名、動・植物の各課長二

卒業生のことを思い出して

私の直接・間接に関係した卒業生は、多く見積もって一万人位?顔と名前がびつかりの人は少ないが、皆さんもよくご存知の方もいる。動物奇想天外(6



旧林間学校「高峰高原」宿舎前で(一九九五年八月撮影)

平成11年度一般会計収支決算報告書

1. 収入の部

Table with 5 columns: 科目, 前年度決算, 11年度予算, 11年度決算, 備考. Rows include 繰越金, 会費収入, 雑収入, 合計.

2. 支出の部

Table with 5 columns: 科目, 前年度決算, 11年度予算, 11年度決算, 備考. Rows include 会議費, 需要費, 後援費, 交際費, 事務局費, 予備費, 次期繰越金, 合計.

3. 財産目録

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 一般会計積立金, 積立金利息, 自動車1台, 同窓会書庫1基.

平成11年度特別会計収支決算報告書

特別会計Ⅰ 記念事業関係

1. 収入の部

Table with 5 columns: 摘要, 前年度, 平成11年度, 前年比, 備考. Rows include 前期繰越金, 事業協力金, 会員名簿販売代金, 80周年名簿還元金, 80周年寄付金, 利息, 合計.

2. 支出の部

Table with 5 columns: 摘要, 前年度, 平成11年度, 前年比, 備考. Rows include 同窓会だより発行, 振込み手数料, 名簿銀箔代, 通信費, 名簿管理費, 打合せ会議費, 雑費, 次期繰越金, 合計.

特別会計Ⅱ 春の同窓会基金

1. 収入の部

Table with 5 columns: 摘要, 前年度, 平成11年度, 前年比, 備考. Rows include 前期繰越金, 会費等収入, 利息, 合計.

2. 支出の部

Table with 5 columns: 摘要, 前年度, 平成11年度, 前年比, 備考. Rows include 通信費, 運営費, 実行委員会打合せ費, 同アトラクション景品代, 幹事学年打合せ費, 次期繰越金, 合計.

同窓会事業報告

船橋高等学校同窓会は、毎年二月十一日に春の同窓会を、八月第一日曜日に通常総会を開催しており、本年も多数の会員の皆さんにお集り頂きました。会の模様と総会での承認事項をご報告いたします。

十一年度は通常の同窓会業務に加え、創立八十周年を翌年に控え、昭和二十八年卒より昭和五十五年卒の同窓生学年幹事による八十周年記念事業募金事業実行委員会(小石税実行委員長)を発足させ活動頂きました。十二月の同窓会日より送付時に募金趣意書を郵送しました結果十二年三月末の寄付金総額は二、四三四、〇〇〇円(振替手数料)となつております。同窓会だより発行に関しては、第一段階として昨年度に卒業生全員を対象とした二一、一五三(経費 三、三二〇、四二七円)の結果を踏まえ、第二段階として住所判明者全員を対象に、同窓会だより・募金案内を一八、〇五四通送付致しました。(経費 二、七六五、〇二七円)八十周年募金にむけ、六、〇八五、四五四円の先行投資をしたともいえます。

事業協力金200万円

平成十年度より同窓会だより発行・送付費用として一口千円の協力をお願い致しましたが、十一年度は八十周年記念事業募金があるので中止致しました。

平成十一年度春の同窓会

「還暦を迎えた同窓生が幹事学年となり、実行する春の同窓会」も六回目を迎え、今回は昭和三十三年松永修実行委員長のもと、千葉県立船橋高等学校二〇〇〇年春の同窓会と銘打ち、八十周年の関係もあり地元船橋の「ホテルサンガールデンららばー」とで二九二名の参加をえました。還暦という人生の節目に、集い得なかつた学友に黙祷を捧げた後、旧友・恩師と久闊を分かち懐かしいひと時を過ごしました。平成十二年度は昭和三十四年卒、金子安雄実行委員長のもと多くの人生賛歌が拝聴出来ればと楽しみにしております。

ホームページ等の活用

世はIT時代といわれ、若い世代はごく当たり前に連絡ツールとしてコンピューターを活用しており、経費面、連絡網の広さ早さからいって、船橋高校同窓会もホームページの開設等が必要な時期かも知れません。学年同窓会、一指とまめで検索すれば、全国の学校同窓会が無料で確認できること、既に利用されていることを教わりました。活用に向けて検討したく考えております。詳しい方はご協力頂ければ幸いです。

母校の現況

●全日制の部活動の状況●

文章内の番号は、以下の大会の種類を表しています。

- ①平成十年度新人大会
- ②平成十一年度関東大会予選
- ③平成十一年度インターハイ予選
- ④その他

(運動系部活動)

- 野球**
- ①ベスト8
 - ②春季大会二回戦
 - ③選手権大会ベスト8
- サッカー**
- ③一回戦敗退
- 柔道**
- ①男子個人81キロ以下ベスト8
 - ②③男子団体二回戦進出
- 剣道**
- ①②男子三回戦進出
 - 女子一回戦敗退
- バスケット**
- ②③男子二回戦進出
 - 女子一回戦敗退
- バレーボール**
- ①男子二回戦進出



野球部県大会ベスト8



平成十二年度陸上競技大会

- 水球**
- ①五位
 - ②四位
 - ③四位
- 競泳男子**
- ③二百メートル背泳ぎ三位
 - 百メートル背泳ぎ二位
- 競泳女子**
- ①二百メートルフリーリレー七位
 - 四百個人メドレー三位
 - 五十メートル自由形八位
 - ②四百メートルフリーリレー六位
 - 五十メートル自由形七位
- テニス男子**
- ①ベスト32
 - ②ベスト16
 - ③ベスト32
 - ④公立大会三位
- テニス女子**
- ②③ベスト32
- ソフトテニス男子**
- ③男子団体二回戦進出
- アーチェリー**
- ②女子団体二位(関東大会出場)
- 新体操**
- ④たばな祭で演技披露
- ワンダーフォーゲル**
- ④夏山合宿(北アルプス穂高岳)

- バドミントン男子**
- ①ダブルス二回戦進出
 - ②団体二回戦進出
- バドミントン女子**
- ①団体県ベスト16
 - ②ダブルス県ベスト16
 - ③ダブルス県ベスト8

(文化系部活動)

- オーケストラ**
- 船橋地区音楽会、県連合音楽会参加
 - 第二十四回定期演奏会(七月)
- 合唱**
- 老人ホーム慰問、ジョイントコンサート、県連合音楽会参加
 - 定期演奏会(三月)
- 将棋**
- 全国高校将棋選手権団体戦二回戦進出
 - フォークソング
 - 定期演奏会
 - たばな祭・予餞会での演奏

●定時制の部活動の状況●

今年全国大会に次に述べる三つの部活動が出場した。
バスケットボール部は八月四日東京体育館で長崎県の鳴滝高等学校通信制とあたり、59対78で一回戦敗退となった。



オーケストラ部定期演奏会

柔道部は八月六日講道館にて団体戦と個人戦に出場した。団体戦は予選リーグでE組二位の成績を修め、個人戦では軽量級大内一孝が第三位、重量級市原知行がベスト8の好成績を修めた。

高校生クイズに参加して

クイズ研究会 佐竹 智之 (二年在学)

「ホームページのアドレスに使用される日本を表すアルファベット二文字で表されるものといえば」ビン「船橋高校」「JP」：「フアイヤー!!」その瞬間僕らの全国出場が決まった。僕は予選当日電車で初めて顔を合わせたという急ぎ寄せ集めチームだ。全チームが集合した時、初めて自分のチームメイトを知った位だ。チームワークにハンディを抱えた僕はクイズ力もハンディを背負った。リーダーの佐藤さんは美術部と、一年の大田原君は合唱部と、僕、佐竹もアーチェリーとかのかけもちで、クイズ研名簿を見たら名前すらなかった。代表として一日だけのはずだった関係がしばらく続くことになった。僕らはまず足りないクイズ力を磨いた。クイズの本を各自学習した上で、夏休み前はなるべく三人で集まった。が、夏休みに入ると、佐藤さんはオーストラリアに短期留学、僕も一週間前だ。チームワークに大

バドミントン部は八月十七日小田原アリーナで松本敏重が健闘むなしく一回戦敗退となった。全国の壁はあつい、夏の大会だった。



高校生クイズに参加した3人

おたより彼れ是れ

平成十二年春の同窓会返信用葉書で寄せられた会員の一言一語です。

矢沢貞子 (昭和二十九年卒)

還暦を過ぎた現在も健康で仕事を
している幸せを感じています。
これからも若い人達のエネルギー
を吸収し頑張ろうと思っております。

林喜八 (昭和二十年卒)

母校八十周年を祝い同窓会の発
展を祈念します。母校を巣立って
五十余年。当時の木造校舎での生
活が追想され感ひとしおです。

板屋裕子 (昭和六十一年卒)

一月一日、二日は二〇〇〇年対
応のため会社で過ごしました。こ
ういうお正月もたまには良いもの
です。

山本久吉 (昭和二十一年卒)

同窓会名簿でなつかしい旧友達
の姿。学徒動員時代と走馬燈の如
く戦後の混乱期を思い出しながら、
素晴らしく成長した母校を誇りに
思います。事務局の皆様感謝し
ております。

中尾学 (昭和二十七年卒)

定年後勤めた会社も五年で退職
し、今は健康のため山歩き、近く
などウォーキングをしています。

田中律子 (昭和六十一年卒)

同窓会だよりははじめて拝見し
ました。引越しが多く情報がと
だえがちであるのに連絡をして
くださった方に感謝しております。

小井土清 (昭和二十五年卒)

旧制中学、新制高校と六年間の
学生生活。戦中戦後と波乱に満ち
た、しかし一番充実した人生でし
た。

佐藤賢一 (昭和五十六年卒)

ホームページで同窓会ができない
だろうか？誰かやってくれるとい
いのだが。

伊藤洋子 (昭和五十四年卒)

「東船橋」駅前に建物が増えて、あ
のウルトラマンがみえなくなつてし
まって残念です。

林宗寿 (平成二年卒)

関西へ住んで三年が過ぎました
が、やっぱり船橋が私のベースに
なっています。いつの日かまた船
橋で暮らせればと思っております。

佐藤公寛 (昭和五十九年卒)

船高時代に夢とした新聞記者に
なり、船高で覚えた剣道でリフレ
ッシュするなど、私の人生の原点
ともいえる。

永岡豊男 (昭和二十三年卒)

憧れの船中に入学したのは昭和
十八年の四月。一年C組の童顔の
クラスメイト達も、間もなく古希
を迎える。

田部井史子 (昭和六十一年卒)

二千年四月で入社して十年を迎
えます。今までの人生を振り返る
いい機会と、昔のアルバム等の整
理をしている時同窓会だよりを読
み、懐かしい思いで一杯になりま
した。気の早い話ですが、卒業十
五周年は是非同窓会をしましょう
ね、八十六年卒の皆さん！

相原わかば (昭和六十二年卒)

環境問題にとりくむ中、ドイツ
の環境教育を視察し、「考え行動で
きる人づくり」に感銘をうけまし
た。管理一辺倒の中学から進学し

た船高の自由な校風の中で、今の
自分の基礎ができたと思います。

西山隆造 (昭和二十一年卒)

古稀を迎えましたが、まだ現役
(大妻女子大)で頑張っています。
栄養学を専攻する学生相手なので
元気でいられるのはホルモンをも
らっているせいかなと思います。

小谷利恵 (平成三年卒)

私達が二年生の時、船高は七十
周年を迎えました。その時三年生
だった先輩と今同じ課内で働いて
おり、「皆とどれくらい変わったか
アルバムを持ち寄ろう！」などと
話していた矢先に八十周年の知ら
せが届き、もう十年も経ったんだ
なあと感じ深く当時を思い出しま
した。

遠藤二友娘 (昭和六十二年卒)

養父の山口先生。「船高の母」と
して多くの船高生をあたたく見
守って下さいました。

石川尚 (昭和五十九年卒)

高校時代はオーケストラ部でコ
ントラバスを弾いていました。そ
の時OBとして共演していただい
た田久保裕一さんとは、一昨年
「習志野第九演奏会」では指揮者
とコーラスの一員という形で共演
させていただきました。船高オー
ケストラ部の今後の発展を願って
おります。

玉置純 (昭和四十九年卒)

卒業して早二十五年。気が付け
ば息子は高校生！あの頃の熱き
日々が胸をよぎります。県スポー
ツセンターで野球部の応援、文化
会館で演奏した四十番、鳥の解剖
と飛行実験、文化祭で南京問題、
爆竹事件(実験?)で職員室の
あの頃の自由奔放な時間が懐かし
い……!

大塚文枝 (昭和三十四年卒)

気がついてみたら、卒業して四

同窓会からのお願い

同窓会だよりを全卒業生の方へ発行して三年目を迎えました。多くの同窓生の方々が、県立船橋高等学校に思いを馳せ、母校に対する思いを新たにされたのではないのでしょうか。しかし、今後このように全員の方、約二万人に同窓会だよりを継続してお送りすることが財政面から非常に困難となっております。

同窓会をいたしましては、年一回の同窓会だよりは、今後皆さんと母校を結ぶ掛け橋として発行して参りたいと思っております。

そこで、以下のことを皆さんにお願い申し上げます。この、是非ともご賛同、ご協力賜ればと思います。

- 1 事務負担金の納入として、同封の振込用紙にて、一口千円をお振込みください。今後はお振込みいただいた方に同窓会だよりをお送りする予定です。
- 2 同窓会情報を日Pで提供したいと思っております。メールアドレス等も検討しています。
- 3 是非、ご協力ください。事務局で一緒に編集作業等お手伝いいただける方、手を挙げてください！

2と3は、学校宛連絡いただくか、

mailto:inakoudousokai@yahoo.co.jp
の四十八年卒島崎までメールを送ってください。

十年ちやうど。船高の歴史の半分が過ぎていました。八十周年を迎える事にとっても感激の気持ちでいっぱいです。母校の発展を祈ります。

樋口いずみ (昭和四十六年卒)

「同窓会だより」を懐かしく読ませていただきました。雪の過後で教員生活も二十五年目になりました。母校出身の方が各方面で活躍されている記事を励みに、また一年がんばっていきたいと思いを新たにしました。

中村浩喜 (昭和三十九年卒)

小滝先生の生物部に所属しました。先輩と後輩の活躍が目立ちました。先輩と後輩の活躍が目立ちました。先輩と後輩の活躍が目立ちました。

中村元幹 (昭和四十三年卒)

三十年が過ぎ、なつかしい思いでが甦りつつある。今でも地学部

は在りますか？
土岐一巳 (昭和五十五年卒)
シンガポール・香港と海外駐在生活もはや五年。そろそろ日本が恋しくなってきました。

編集後記

- ①創立八十周年を迎えて、多くの先輩方の足跡がしのばれます。(S五十二年卒・T)
- ②校内事務局に待望の後輩加入で、雑用がほんの少し減りました。(S五十六年卒・S)
- ③まさか同窓会だよりを担当するとは思ってもみませんでした。同期の皆様、三十年後は幹事学年で。よろしくお願います。(平成元年卒・Y)